

## 2016年度 SIP-adus 施策概要

施策名

自動走行システムの実現に向けた諸課題とその解決の方向性に関する調査・検討における自動走行システムの高度化及び普及展開に向けた社会面・産業面の分析に関する調査

担当組織

東京大学生産技術研究所

研究代表者名 須田義大

### プロジェクトの目標、背景

今後、自動走行システムの高度化及び普及展開を推進していくためには、日本国内外における社会的・産業的な影響や変化に伴うリスクを明確化し、どのように対処していくのか、長期的な視点でシナリオを策定し、自動走行システムに対する国民の更なる理解を図ることが必要である。本調査では、社会・産業に対するインパクトの明確化及び中長期シナリオの策定に向けた基礎検討並びに産学官が連携したオープンな検討体制の構築を行う。

### プロジェクトの概要

平成28年度は、以下の検討を行った。

- ・10名程度の幅広い分野の大学の専門家を中心にした検討体制を構築した。
- ・この検討体制の元、自動走行システムの進化の姿はLv2の高度化とLv4の二極化することを明示し、人流・パーソナルカー、人流・サービスカー(バス)、物流・サービスカー(トラック)等に分けて、期待されるインパクトを分類するとともに、自動車産業へのインパクトについても検討した。
- ・期待されるインパクトにおける留意事項・検討事項を整理するとともに、社会・産業に対するインパクトにかかる検証・評価のために、(政策)評価指標(KPI)、進化(実用化)に向けたフォローアップすべき項目の検討の提案を行った。
- ・今後2～3年で検討すべき内容及び中・長期で実施すべき内容の提案を行うとともに、産学官連携体制の構築に向けた案、進め方の提案を行った。

### 今後の課題

- ・社会受容性
- ・自動走行システムの導入・運用における公的資金導入と市場原理との関係性整理
- ・都市のデザインとの関係
- ・市場の創造、マーケティングの必要性
- ・国際的な相互理解のための欧米諸国をはじめとする国際連携
- ・現在の検討体制の継続・拡充
- ・学のall Japan組織(受け皿)検討
- ・産官学連携体制検討